

女性農業委 30%以上に

アグリレディス21市長会に要望書

県内市町村の女性農業委員らでつくる「みやぎアグリレディス21」と県農業会議は18日、2027年までに県内各市で行われる農業委員の改選で、女性委員の割合が30%以上になるよう登用の促進を求め、県市長会に要望書を提出した。

県農業会議などによると、女川町を除く34市町村の農業委員会の女性委員は計93人。委員全体の21・4%で全国平均(14・4%、18日時点)を上回り、栃木県に続く全国2位の登用率を誇る。富谷、塩釜両市の42・9%を筆頭に8市町が30%を超えているが、15市町は20%を下回っている。

仙台市青葉区の県自治会館で、市長会長の菅原茂気、仙沼市長に要望書を手渡し、アグリレディス21の伊藤恵子会長は「県平均にする」と目標の30%に届いていない。地域の農業をリードする女性農業者の育成を強化

してほしい」と要望した。県農業会議の中村功会長も「女性の社会進出への理解は進みつつある。目標の30%は高いハードルだが、実現に向けて協力してほしい」と訴えた。菅原会長は「首長が粘り強く推進していく必要がある。女性登用の機運を高めていきたい」と応じた。



菅原会長(右)に要望書を手渡した伊藤会長(中央)と中村会長